

皆さん、こんにちは。私宮城県にあります東北大学からまいりました堀切川と申します。私の名前は珍しいので日本人の皆様にとっても不思議な名前だと思いますが、日本人でございませう。お話に入る前に非常に恐縮ですが、先程のbuffetが非常に美味しく、あまりに美味しいのでワインを少し飲みすぎてしまいました、何とかがんばってお話させていたきたいと思ひます。

昨日の分科会1は中小企業の交流ということでピエモンテと我々のいる仙台宮城、お互いの地域について意見交換をしましたが非常に有意義でした。先程prof.モ学長もおっしゃっていましたが、この2つの地域は非常に似ています。一つは中小企業がたくさんあるということ、お互いの町の拠点に、ピエモンテにはトリノ工科大学、宮城には東北大学がございませう。東北大学は教職員、学生合わせて2万3000人余り、日本では3番目に大きな大学ですが、そういう意味で地域的には非常に似ているということが理解できたのが共通認識でした。もう一つ共通認識できたことがございまして、これは私にとって非常に興味深い共通点だったのですが、ピエモンテの中小企業の人たちも宮城の中小企業の人たちも技術力が非常に高い会社がたくさんあるんですけど、ちょっと消極的で大学の人間とか役所の人か背中を押さないとなかなか元気に開発していけない、というのが共通点であると理解いたしました。イタリアの言葉では「お尻を蹴っ飛ばす」という表現をとるそうなのですが、日本でも全く同じ表現を使ひます。日本では「けつを叩く」というのですが、中小企業を後一押し皆でpushすることでお互いの中小企業の技術力がアップして、新しい商品ができるんだな、そういう意味でも非常に似ているな、と理解した次第です。そして昨日の分科会では宮城の取り組みとして、私が東北大学の教授としてここ5年間ほどやらせていただひている「仙台市地域連携フェロ」という立場で活動してありますがそのお話をさせていただきました。これはどういう活動かといひますと、大学の教授と仙台市の人たちと一緒に地元の中小企業を訪問する活動をしてひます。そこに行ったときに今までに開発に失敗した話をしてもらひています。中小企業の人たちは一生懸命努力して新しいものにチャレンジしてひって途中で失敗することも多いのですが、その失敗の原因を私なりに判断してそれを解決する方法を提案します。解決する為ひに大学で共同研究を始める、そういう活動をこの5年間やりまして今現在で20件以上地元の企業から新しい事業化をさせていただひています。最近ではこれを「仙台-堀切川モデル」と名前を付けていただひて全国的に急に広く知られることになりました。

そういった私たちの活動を紹介したのですが、先程申し上げた2つ目の共通認識と同じことなのですが、お互いの地域の中小企業を少し積極的に後ろからpushすることで強くなれる、そういう似通った中小企業同士がピエモンテの企業の人たちと、宮城の企業の人たちが交流できたらいいなという風に思ひます。例えばですけど、ハイテクの企業さんが中心となると思ひますが、ミドルテクだけでなく更にはローテクの会社も含めて意外と元気な面白い会社がお互いの地域にあると思ひています。そういう意味でピエモンテのハイテク・ミドルテク・ローテク関わらず、いろんな分野の人たちに是非宮城に訪問い

ただいで宮城県の色々な企業と交流いただければうれしいと私は思っております。それからトリノ工科大学と東北大学、トリノ工科大学はヨーロッパでも非常に優秀なトップクラスの大学だと理解していますが、この2つの大学が色々な形で交流が深まれば、さらに地元の産業界を応援する意味でも有意義かなと感じた次第です。長いのか短いのか自分では理解できていないのですが、以上私からのコメントでございます。